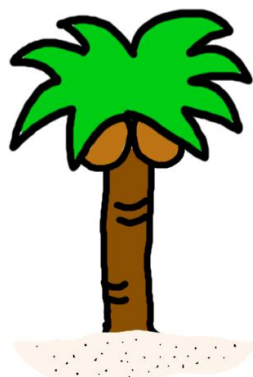


植物原料は環境にやさしいのか？

洗剤メーカーは、「植物原料のパーム油（あるいは、やし油）からつくった環境にやさしい洗剤。」という宣伝をします。石油系界面活性剤が分解するまで5日かかるのに、パーム油からつくった界面活性剤は3日ですむからです。でも、せっけんは、たったの1日で分解されます。



パーム油は、軽油の代替燃料の原料としても利用が急増していて、近年急激に増産しているインドネシアでは、パーム農園の7割は、熱帯雨林を伐採してつくられたといわれています。マレーシアでも1985年から15年間の森林減少の87%がパーム農園の開発のためといわれています。さらに、搾油工程で発生する有機物を大量に含んだ廃液を河川に垂れ流している工場もあって、水質汚濁が深刻です。

日本のパーム油消費の80%以上は食用です。食用油メーカーも原料がどのように生産されているのかを考えて、生産地の環境に責任をもつ取り組みをすべきです。

というわけで、単純に「植物原料だから環境にやさしい」とはいえないのです。